

吉尾前市長を偲んで



前調布市長吉尾勝征氏(75歳)が、令和元年12月21日に逝去されました。

吉尾氏の逝去を悼み、ご冥福をお祈り申し上げます。

吉尾氏は昭和61年7月に第6代調布市長に就任され、基本構想に掲げた「すてきに暮らしたい・愛と美のまち調布」の実現を目指し、平成14年7月に退任するまで、4期16年にわたり市政を担われました。

在任中には、長年の重要課題であった京王線(調布駅付近)連続立体交差事業をはじめ、文化会館たづくりの開設、知的障害者援護施設の開設、地方分権と税源移譲への対応、民間委託の推進など行政改革、崖線の緑の保全など、多岐にわたりその手腕を発揮されました。

清潔・公正・信頼をモットーに、市民本位の市政を推進された吉尾氏を偲び、主な功績を振り返ります。

主な略歴

- 調布市長 昭和61年7月22日～平成14年7月21日
- 調布市議会議員 昭和50年6月1日～昭和61年7月13日
- 調布市議会議長 昭和60年7月26日～昭和61年6月9日
- 東京都市長会副会長 平成11年5月1日～平成14年7月21日
- 調布市社会福祉事業団理事長 平成15年4月1日～平成23年3月31日
- 社会福祉法人東京かたばみ会理事 平成24年12月17日～令和元年6月19日

吉尾前市長の16年の歩み

- 昭和61年 第6代調布市長に就任。映画俳優の碑建立
- 昭和62年 市の鳥(メジロ)制定。特別養護老人ホーム「調布八雲苑」完成。ちょうふ音楽祭(第1回)開催
- 昭和63年 情報公開条例施行
- 平成元年 (第3次)基本構想「すてきに暮らしたい・愛と美のまち調布」策定。シネマ・フェスティバル・イン・調布(第1回)開催
- 平成2年 調布市長に再選。甲州街道サミット(第1回)開催。調布市国際交流平和都市宣言。ごみ非常事態宣言。調布ゆうあい福祉公社設立
- 平成3年 平和と文化のモニュメント設置
- 平成4年 深大寺水車館完成
- 平成5年 あゆみ学園改修
- 平成6年 調布市長に3選。行財政改革指針策定。医療ステーション完成
- 平成7年 市制施行40周年。文化会館たづくり開館。可燃ごみ収集業務民間委託
- 平成8年 レインボープラン21策定。市立染地小学校でふれあい給食開始
- 平成9年 市の公式ホームページ開設
- 平成10年 調布市長に4選。調布エフエム開局
京王線連続立体交差計画が国で採択
- 平成11年 FC東京創立に出資。市立調和小学校開校(平成13年に全国初のPFI実施校となる)
- 平成12年 (第4次)基本構想「みんながつくる・笑顔輝くまち調布」策定。人口20万人到達。中心市街地街づくり総合計画策定。知的障害者援護施設の開設。ISO14001認証取得。ミニバス運行開始
- 平成13年 子ども家庭支援センターすこやか開設。第1次行財政改革アクションプラン策定。東京スタジアム開業
- 平成14年 2002FIFAワールドカップで調布市がサウジアラビア王国チームのキャンプ地に。京王線連続立体交差計画の都市計画変更(地下化)



初登庁の様子



敬老会の様子



子ども家庭支援センターすこやか訪問の様子

吉尾前市長の主な功績

調布市文化会館たづくりの開設

吉尾氏が市長に初当選した昭和60年代頃から、生活におけるゆとりや潤い、やすらぎ、知的なものという言わば無形の価値に人々の意識が向けられはじめました。

こうした市民意識の変化を踏まえ、生涯学習や文化創造、国際交流の推進拠点、市民文化と「まなび」の殿堂として、施設の計画を推し進めました。

文化会館の建設に当たっては、利用者団体の代表や公募市民による建設計画推進懇談会を開き、広く市民から意見を求めました。そして、平成7年10月、「文化会館たづくり」がオープンしました。



京王線(調布駅付近)連続立体交差事業の実現へ

調布市では京王線が市街地を南北に分断しており、道路と鉄道の平面交差は社会・経済活動の大きな障害となっていました。吉尾氏はこれを調布



市における都市基盤整備上の最重要課題に掲げていました。「京王線の立体交差化なくして調布の発展はない」という強い意志の下、市の施策として都市計画マスタープランを策定するなど実現に尽力されました。

そして、平成24年8月に京王線の地下化が実現しました。

知的障害者援護施設「なごみ」「そよかぜ」「すまいる」の開設

調布基地跡地に平成12年4月、調布市知的障害者援護施設が開設しました。この施設では、障害があっても障害のない方と同様の生活や活動ができる環境を整備し、住み慣れた地域の中でともに暮らし、自立していくための支援・援助を進めることを目的としています。

吉尾氏は、「『健全な人は年をとって当たり前と言われる。どうして知的障害者が年をとることに気づいてくれないのか。知的障害者だって、高齢社会を迎える時代だ。』関係者からのこうした一言一言が、今でも忘れられません。」と施設開設への強い思いを語られました。



調布市長 長友貴樹

昨年のラグビーW杯開催時における国内外からの来訪者は50万人以上に及びました。さまざまな場面で享受したあの心揺さぶられるような大きな感動は、今もなお強い余韻として残り多くの人々を包み込んでいます。

この幸運に思いを致すとき、吉尾前市長のご功績を改めて痛感せざるを得ません。飛田給の地に国際試合も開催できる大規模スタジアムが建設されたことは、今回のW杯のみならず我々に計り知れない恩恵をもたらしました。また、京王線が地下化されたことにより調布駅を含む3駅の地上部の多面的有効利用が可能となり、W杯においてもおもてなしのファンゾーン事業を大々的に展開することができました。

その他、昭和から平成にかけて調布市が大きく飛躍する時期に手掛けられた都市計画、環境、福祉、教育・子育てなど各分野における枚挙にいとまのない有効な施策展開が今日の市の発展の礎となっています。

市長に就任して間もない頃、このような言葉をかけて頂きました。「最初はね、所作もわからず誰だって戸惑うこともありますよ。だがね、なあと1年間経験すればその後は同様のことです。すぐに慣れますよ」。賜った心温かい思いやりを忘れたことはありません。

お志を胸に一歩一歩堅実にまちづくりを前進させてまいります。本当に有難うございました。

調布市議会議員 渡辺進二郎

吉尾前市長は、我々市議会議員の先輩です。昭和50年に市議会議員に初当選され、市議として11年間、そのうち昭和60年には議長として、さらに、昭和61年からは、市長として、平成14年までの4期16年間、市政を牽引され、長きに亘り調布市の発展にとって大変重要な課題に取り組んでこられました。

そのひとつは、京王線連続立体交差事業の実現に向け、尽力されたことです。当初、高架式での事業着手を目指しましたが、環境整備が十分ではなく昭和50年に断念しました。東京都や、京王電鉄との協議、市民意見などを踏まえ、平成10年には国から新規着工準備採択を得て、平成14年2月には地下化への都市計画に変更されました。その後、平成24年8月に18か所の踏切を除去し、調布、布田、国領の3駅を地下化する立体交差事業が完成し、中心市街地の整備が大きく進展したのはご存じのとおりです。

また、生涯学習や、文化創造、国際交流の推進拠点として「文化会館たづくり」の整備、高齢化対策など幅広い行政需要に応じて、今日の調布市の繁栄の礎を築いてこられました。

人一倍、調布を深く愛してやまなかつた吉尾前市長。

私も市議会としても、一丸となって、吉尾さんの遺志を受け継ぎ、今後のまちづくりに努めて参りたいと思います。